

報告タイトル

韓国の社会保障制度改革にみる「脱キャッチアップ的挑戦」
'Post Catch-up Challenges' in South Korea's Social Security System

氏名(所属)

金成垣(東京大学)
KIM Sung-won(University of Tokyo)

要旨(800字程度)

韓国は、20世紀末のアジア通貨危機をきっかけとして社会保障制度を整備しつつ福祉国家化に乗り出した。それ以降およそ四半世紀が経過している。現在、韓国の社会保障制度はどのような状況にあるのか。この問いに対して決してポジティブな評価はできない。

例えば、年金をみると、皆年金が実現してから給付水準の引き上げは一度も行われず、むしろ大幅な削減改革により、現在の平均給付額は最低生計費を下回っている。皆保険体制で提供される医療サービスでは、保険外診療が一般的であるため、自己負担が6割に達することも多い。介護保険は導入されているものの、民間保険に頼る人の方が多いため、その対象者とサービスが限定されている。雇用保険の給付水準をみても、OECD平均の1/3程度の低水準である。最後のセーフティネットである公的扶助の基準は、この間の改革によって、一般的な相対的貧困率より下がり、中位所得30%となっている。

このような状況のため、韓国国内では、福祉国家化以降のこの四半世紀間、社会保障制度が「足踏み」状態であるという認識が強い。上記のような制度整備の実態から、福祉国家化に「失敗した」という見解さえみられる。

しかしながら、韓国の社会保障制度が足踏みするかのように、またそのため、福祉国家化が失敗したかのように見えるものの、それは、先進福祉国家へのキャッチアップが前提とされたときの見解であろう。キャッチアップを前提とせず、韓国の実態をみると、先進諸国の経験からして異質的な挑戦を試みていることに気づく。本報告では、韓国にみるその「脱キャッチアップ的挑戦」ともいえるべき実態に着目して、その具体的な内容は何か、それを生み出している政策的文脈は何かを明らかにする。それをふまえて、韓国の経験のもつアジアへの広がりを探ることが、本報告の最終目的である。